

【資料6】

第1回仁淀川地域アクションプランフォローアップ会議資料

平成27年9月3日

平成27年度仁淀川地域アクションプランの追加項目について

仁淀川地域アクションプランの追加（予定項目）

■追加

NO.	アクションプラン名	事業概要
1	No. 39 柑橘類等地域の農産物を活用した加工品の生産と販売拡大 （越知町） 【実施主体】（株）岡林農園	柑橘類等、越知町をはじめとした地域の農産物を活用した新たな加工品の開発や生産と販売の拡大をさらに進めるとともに、原料の柑橘類の確保に向けた農地及び生産者情報の共有を進める。
2	No. 40 宇佐のアサリ資源を活用した地域の活性化 （土佐市） 【実施主体】宇佐地区協議会・宇佐アサリ垂下式養殖プロジェクトチーム	「かぶせ網」や「海底耕うん」によるアサリ資源の保護・回復を推進するとともに、資源回復後は観光分野への活用を検討する。また、垂下式養殖技術の確立によるアサリの販売促進及び宇佐アサリのブランド化を進める。これらの取組によって、宇佐地域にかつてのような賑わいを取り戻し、地域の活性化につなげていく。

有望素材シート（27年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	越知町	素材名	文旦、小夏、柚子、直七、ポンカン、みかん等
		関連素材	

現状・課題	<p><現状> (株)岡林農園は文旦、小夏、柚子等を自社及び契約栽培し、これらを原料とした加工品の製造販売及び青果の販売等、生産・加工・販売を一括して行っている。 加工品事業においては、会社の特徴として越知町をはじめとした県産原料にこだわって、一次加工の果汁の卸売のほか、果汁を使ったドリンクやゼリー、飲むジュレ、ジャム、調味料等を製造、販売しており、県内外の商談会への参加や、近年は海外展開に向けた市場調査やテストマーケティングの実施など販路拡大にも積極的に取り組んでいる。 原料となる柑橘類の生産においては、生産者の高齢化等により耕作放棄地が年々広がる中で、手入れのできなくなった畑の管理の手伝いや貸借による作物の生産などにより原料の確保に取り組み、農地を守るための人材育成などの仕組みづくりも進めている。</p> <p><課題> ・生産体制構築に向けた経営基盤の強化 ・生産、加工、販売等それぞれの業務に携わる人材の育成・確保 ・生産拡大に向けた農地の確保 ・市場ニーズに対応した新商品の開発及び生産体制の構築</p>
今後の方向性	<p>越知町産等の農産物を原料とした食品加工の拠点を整備することで、農業を含めた越知町の産業振興を推進し、新たな雇用の創出による移住・定住につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地の維持を念頭においた柑橘類等原料の確保 ・生産体制の強化に向けた経営改善及び事業運営 ・地域の農産物の特性を生かした食品加工のための拠点整備

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	柑橘類等地域の農産物を活用した加工品の生産と販路拡大
	関係市町村名	越知町

事業の概要	<p>柑橘類等、越知町をはじめとした地域の農産物を活用した新たな加工品の開発や生産と販売の拡大をさらに進めるとともに、原料の柑橘類の確保に向けた農地及び生産者情報の共有を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町と事業主体が農地情報等を共有し、耕作放棄の予防策として新たに確保する契約栽培地や借地での柑橘類等の栽培面積を拡大 ・専門家のアドバイスにより経営基盤の強化を図るとともに、商品開発等の事業計画を策定 ・新商品開発や、既存商品の販路拡大に伴う需要増に対応するための食品加工施設整備の検討 ・町の移住施策等との連携により、生産、加工、販売等各部門の担い手確保を進める。
-------	--

事業主体等	<p>【事業主体】 (株)岡林農園</p> <p>【関係機関】 越知町</p>
-------	---

主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施 【H27】	1年後 【H28】	2年後 【H29】	3年後 【H30以降】
	農地の確保	・契約農家の拡大及び耕作放棄地等での自社栽培の拡大	→		
経営分析及び事業計画策定	・経営コンサルタントによる経営分析及び事業計画の策定				
新商品開発及び販路開拓	・事業計画をふまえた新商品開発と販路開拓 ・経営基盤の強化	→			
加工施設の整備		・販路拡大及び新商品開発に伴う加工施設の整備			

指標・目標	項目	事業実施 【H27】	1年後 【H28】	2年後 【H29】	3年後 【H30以降】	
	【設定根拠】	【推計の考え方】 H27年度後半に経営分析を実施し、事業計画を策定する予定のため、次期計画において具体的な数値目標を設定する。				
		【考え方】				

総事業費等	総事業費	3,413千円（うち27年度 3,413千円）
	（内訳 国： 県：1,706千円 市町村： 其他：1,707千円）	
	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）	
	国： 県：高知県産産振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業） 人的支援：	
	その他：	

備考	
----	--

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
39 柑橘類等地域の農産物を活用した加工品の生産と販売拡大 《越知町》	柑橘類等、越知町をはじめとした地域の農産物を活用した新たな加工品の開発や生産と販売の拡大をさらに進めるとともに、原料の柑橘類の確保に向けた農地及び生産者情報の共有を進める。	(株)岡林農園			<ul style="list-style-type: none"> ◆農地の確保 ◆経営分析及び事業計画策定 ◆新商品開発及び販路開拓 ◆加工施設の整備

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
			<p>農地の確保</p> <p>契約農家の拡大及び耕作放棄地等での自社栽培の拡大</p>			
			<p>経営分析及び事業計画策定</p> <p>経営コンサルタントによる経営分析及び事業計画の策定</p>			
				<p>新商品開発及び販路開拓</p> <p>・事業計画をふまえた新商品開発と販路開拓</p> <p>・経営基盤の強化</p>		
				<p>加工施設の整備</p> <p>販路拡大及び新商品開発に伴う加工施設の整備</p>		

有望素材シート（27年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	土佐市	素材名	アサリ
		関連素材	
現状・課題	<p><現状> ○浦ノ内湾におけるアサリの漁獲量は、昭和58年頃の約2,800tをピークに減少傾向が続いており、近年では平成24年に約7t、平成25年に約5tと大きく落ち込んでいる。アサリ減少の要因としては、アオサやホトトギス貝の増殖による生育阻害、外敵による食害などの複合的要因があると考えられており、以前は潮干狩りで賑わった天皇洲も昔の面影はない。 現在、天皇洲全体を含む約26haをアサリの禁漁区域に指定し、水産試験場や漁協、住民団体等がアサリの資源保護・回復に向けた取り組みを行っている。 ○民間事業者が平成26年6月からアサリの垂下式養殖に着手。現在、事業化に向けて実証試験的な取り組みを行っている。</p> <p><課題> ○アサリ資源を保護・回復させるための効果的な手法の確立 ○アサリ資源の管理 ○観光やビジネスとしての活用</p>		
今後の方向性	<p>○アサリ資源の保護・回復に効果的と考えられる「かぶせ網（※1）」や「海底耕うん（※2）」を継続して実施する。 ○アサリ資源の管理（間引き後の放流）により放卵量を増加させ、将来的な観光分野への活用を検討する。 ○宇佐のアサリで外貨を獲得するため、資源の保護に影響なく継続的な取り組みが可能な「垂下式養殖（※3）」を確立する。</p>		

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	宇佐のアサリ資源を活用した地域の活性化
	関係市町村名	土佐市

事業の概要	<p>「かぶせ網」や「海底耕うん」によるアサリ資源の保護・回復を推進するとともに、資源回復後は観光分野への活用を検討する。また、垂下式養殖技術の確立によるアサリの販売促進及び宇佐アサリのブランド化を進める。これらの取組によって、宇佐地域にかつてのような賑わいを取り戻し、地域の活性化につなげていく。</p> <p>かぶせ網（※1）：干潟に網をかぶせ、エイやチヌなどの外敵からアサリの稚貝を保護する方法 海底耕うん（※2）：アサリに最適な生育環境を整えるため、海底を耕うんすること。 垂下式養殖（※3）：ケアシエル（カキ殻加工固形物）を活用してアサリ稚貝を天然採苗した後、その採苗ネットを容器（たらい）にセットし、筏から垂下する養殖方法</p>				
事業主体等	<p>【事業主体】 ①宇佐地区協議会（漁協（宇佐統括支所・深浦支所）、漁業者、アサリ販売業者他） ②宇佐アサリ垂下式養殖プロジェクトチーム（黒木商店、吉永鯉節店、宇佐もん工房、奥田釣具店、漁協（宇佐統括支所）、漁業者、地域おこし協力隊他）</p> <p>【関係機関】 ○県漁協宇佐統括支所 ○土佐市産業経済課・水産課 ○水産試験場 ○土佐市商工会など</p>				
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H27】	1年後【H28】	2年後【H29】	3年後【H30以降】
	○かぶせ網等によるアサリ資源の保護・管理	<p>資源保護の取組（海底耕うん、かぶせ網等の実施）</p> <p>資源管理の方策（アサリ資源の増殖策（禁漁区の設定、稚貝の間引きや放流）、管理型漁業の確立など）の検討</p> <p>観光分野への活用検討</p>			
	○アサリの垂下式養殖	<p>垂下式養殖の体制確立（実証試験の実施・検証）</p> <p>養殖事業の拡大</p> <p>宇佐の事業者と連携したアサリ販売促進</p>			
指標・目標	項目	事業実施【H27】	1年後【H28】	2年後【H29】	3年後【H30以降】
	○かぶせ網によるアサリ資源の増加量：18,000kg	-	6,000kg	12,000kg	18,000kg
	○垂下式養殖によるアサリの出荷量：2,800kg	100kg	700kg	1,400kg	2,800kg
	【設定根拠】	<p>【推計の考え方】 ○アサリ資源の増加量：かぶせ網の設置面積を年間約2,000㎡拡大し、それに伴ってアサリ資源が増加（3kg/㎡の増を見込む）。 ○アサリ出荷量：筏1台の養殖能力は700kg。H29年に筏を2台に、H30年に筏を4台に増設する。</p>			
仕分					
総事業費等	総事業費	千円（うち27年度 千円）			
	（内訳 国： 県：千円 市町村： その他：千円）				
	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）				
	国： 県：産業振興推進総合支援事業 人的支援：				
	その他：				
備考	<p>かぶせ網等によるアサリ資源の保護・管理の取り組みは現在、国庫補助を活用中である。アサリの垂下式養殖については、1サイクルまわしてその結果を検証するため実証試験的に取り組んでおり、市からは垂下式養殖に必要な資材等の支援（市単補助）を受けている。これらの取組状況をもとに今後、産振総合補助金等の活用も視野に入れ事業化を進める。</p>				

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>40 宇佐のアサリ資源を活用した地域の活性化 （土佐市）</p>	<p>「かぶせ網」や「海底耕うん」によるアサリ資源の保護・回復を推進するとともに、資源回復後は観光分野への活用を検討する。また、垂下式養殖技術の確立によるアサリの販売促進及び宇佐アサリのブランド化を進める。これらの取組によって、宇佐地域にかつてのような賑わいを取り戻し、地域の活性化につなげていく。</p>	<p>-宇佐地区協議会 -宇佐アサリ垂下式養殖プロジェクトチーム</p>			<p>◆かぶせ網等によるアサリ資源の保護・管理</p> <p>◆アサリの垂下式養殖</p>

第2期計画				指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
			<p>かぶせ網等によるアサリ資源の保護・管理</p> <p>資源保護の取組(海底耕うん、かぶせ網等の実施)</p> <p>資源管理の方策(アサリ資源の増殖策(禁漁区の設定、稚貝の間引きや放流)、管理型漁業の確立など)の検討</p> <p>観光分野への活用検討</p>			
			<p>アサリの垂下式養殖</p> <p>垂下式養殖の体制確立(実証試験の実施・検証)</p> <p>養殖事業への拡大</p> <p>宇佐の事業者と連携したアサリの販売促進</p>			

